

仏の教えの第一は「^ふせつし^{ょう}不殺生」 人の命を損なう戦争は罪悪である

戦争は罪悪である
明日へ

◆あらすじ

2015年の秋、安保法案に反対する国会前のデモの様子がテレビのニュース番組で放映されている。長年、高座で反戦平和を語り続けてきた落語家、金山亭我楽こと尾藤純次(岡本富士太)は、96歳になった今、老人ホームで居ても立ってもいられず車椅子でデモに参加しようとするが、介護士の由希奈(松本ふみか)に外出を止められる。戦争を知らない世代の由希奈に、純次は噺家への道を開いてくれ師匠とも仰いだ一人の僧侶・杉原良善(中原丈雄)のことを語り始める。

1932(昭和7)年、日中戦争から太平洋戦争に向かう戦争の時代。瀬戸内海に浮かぶ小島に暮らす13歳の純次(松田優佑)は落語好きな少年だった。純次の父親は落語よりも学校の勉強に専念するよう諭してもらおうと良善の寺を訪れる。ところが良善は、純次に落語をやるよう逆に背中を押してくれる。やがて東京に出て落語家になった純次(小倉レイ)は、20歳となり出征の日を迎える。島での出陣式で、良善は突如「戦争は罪悪で人類に対する敵、すぐにでも止めたほうがええ」と村人を前に語り始め、純次たちを驚かせる。それまで戦争に協力する説教を語っていた良善のこの変化には何があったのか……。



戦争への悪縁を潰しましょう

花園大学総長 河野太通

1930年、大分県生まれ。龍門寺(兵庫県姫路市)住職。臨済宗妙心寺派前管長。全日本仏教会元会長。

この作品の台本を読んで泣いてしまった。あの時代に、このような良心の人、慈悲の人、まことの仏教者の居たことに。戦前・戦中を軍国少年で過ごした私は、救われる思いをするのである。

今、かの戦争にころがっていった日本の社会状況と同じだという危機感を持たざるを得ない。是非、この映画をご覧いただき、悲惨な過ちをくりかえすことになる悪縁を潰しましょう。

◆かいせつ

かつて国を挙げて戦争に突き進んでいった第二次世界大戦中、戦争反対を訴えた一人の僧侶がいた。挙国一致、国家総動員のかげ声のなか自由な言論が抑圧された時代、良心から発した言葉の行方は、宗門からの懲戒、そして特高警察による逮捕・投獄だった。この物語は、時代の流れに抗って反戦を訴えた僧侶の実際にあったエピソードなどを下敷きに、その僧侶の生き方に影響を受け、後に反戦を訴える落語家となった少年の物語などを新たに創作し、現代に戦争を語り継ぐことの意義を問いかけるものです。

監督は、橋爪功主演『天才刑事・野呂盆六』(ABC)シリーズなど、テレビドラマで活躍中の藤嘉行。主演はNHK連続テレビ小説『花子とアン』や大河ドラマ『真田丸』などの中原丈雄。さらに上條恒彦、岡本富士太、小倉一郎らベテランが若い出演者たちの脇をかためている。



eiga-ashitae.com

Facebookもチェック



2018年7月9日(月) 文京シビックセンター小ホール

料金

一般・シニア 1000円

小・中学生 500円 高・大学性 800円

◆主催/文京社会保障推進協議会

◆共催/東京民医連北中ブロック運営委員会

お問い合わせ/東京保健生活協同組合 Tel.03-3947-7018(担当:篠田)